

中高大連携による消費者教育推進事業の 実践モデルの構築

保 田 宗 良¹
 福 田 進 治¹
 加 賀 恵 子²
 加 藤 徳 子³

はじめに

消費者市民社会の構築は、すべての生活者が関わる命題であるが中学、高校、大学が連携してそれぞれの知見を活用すれば構築がより一層進展する。SDGsは消費者教育の中心的テーマになることが多いが、学生が関心を有する食品ロスについて各自の知見を活用すれば、自分たちができる対応策が展開できる。メンバーが進めてきた教育、研究の蓄積を踏まえてこの実証研究を進めれば、国内の他大学、他地域の消費者協会が参照すべき実践モデルが構築可能となり、それは様々な波及効果を期待できる。

1 背景と目的

はじめにで一部背景を記述したが、今まで2015年度から消費者フォーラム in HIROSAKIを開催して、その成果を蓄積してきた。高大連携に力点を置き、消費者教育懇談会を2019年から開催している。人文社会科学部は青森県消費者協会と連携協定を締結しているので、関係強化の基盤は整備されている。

一昨年度、文部科学省消費者教育推進事業に採択され、消費者フォーラム、報告書の内容は関係者から高く評価された。弘前大学で実施している教養教育と専門教育について、消費者教育に関わっている識者が客観的な評価を加え、教育プログラムの改善を試みた。

昨年度は人文社会科学部の学生が附属中学校でSDGsの講義を行い、中学生と大学生が食品ロスについて議論を進めた。さらに消費者フォーラムでは高校生2名が消費者教育推進に関する実証研究を行い、その内容は地元誌に掲載される等、弘前地域における消費者教育推進の動きは確実に進展している。

こうした従前の背景をふまえて、本年度はSDGsに関する多面的なプログラムを開発することを目的とし、消費者教育懇談会、大学生のオンラインによる食品ロスの講義の実施、消費者フォーラム in HIROSAKIを開催し、それらの内容をふまえて3月末に報告書を発行するが、そうした活動の目的は、本学部、教育学部の青森県消費者協会、県内高等学校との関係強化、本学が弘前地域における消費者教育の拠点となることである。

¹ 弘前大学人文社会科学部

² 弘前大学教育学部

³ 弘前大学非常勤講師

2 実施内容

①消費者教育懇談会

11月23日(祝日)に人文社会科学部4階、多目的ホールで消費者教育懇談会を開催した。(13時開始、16時終了)

次第は以下のとおりである。

- 1 取り組み事例の報告
「大学における金融経済教育の取り組み事例—ライフサイクルゲームを用いて」
福田進治(弘前大学人文社会科学部)
- 2 「中高生の『消費者市民社会の実現』に向けた探求学習を弘大生が応援するプロジェクト」とは?
加賀恵子(弘前大学教育学部)
- 3 青森県消費生活センターからの情報提供
増田あけみ(青森県消費生活センター)
- 4 参加者の情報交換



今回で4回目の懇談会であるが、生協職員、高校教諭等のメンバーが参加して質の高い議論がなされた。

上記の写真はライフサイクルゲームの実践風景である。金銭感覚が分かりやすく修得できるので、基礎ゼミナール等で活用すれば初学者の金融経済教育の効果が期待できる。

民法改正により2022年4月1日から成人年齢が満18歳に引き下げられた。高校3年生は誕生日を迎えると成人になる。大学生は4月1日に全員が成人になった。契約についての知識の確認が必要であり、情報交換ではそうした内容が話題となった。

②人文社会科学部、教育学部学生の合同報告会(交流会)

12月14日(水)総合教育棟207講義室で、2学部学生の合同報告会が行われた。(14時20分開始、15時50分終了)1月21日の消費者フォーラム in HIROSAKIで報告する内容をブラッシュアップすることが目的である。

教育学部学生チームによる「きみとタノシーの一日すごろく」を用いた幼い子供と保護者への消費者教育実践」の報告はヒロロで行った実証研究をまとめたものであり、参加者の意見を整理した興味深い報告である。

人文社会科学部学生チームによる「冷蔵庫の中を探索しよう!～食品ロスを削減するためには～」は附属中学校の生徒に行う模擬授業の準備と消費者フォーラムで行う報告の準備を兼ねたものである。中学生が取り組んでいるSDGsを対象としており、中学生が家にある冷蔵庫を探索して食べきれない食料を保管していないかを問う内容となっている。

それぞれのチームに対して、出席した学生全員がコメント、改善すべきことを提言し、担当教員3名が総括を加え終了した。

3 今後の予定

①附属中学校の生徒に対する模擬授業

1月12日

1月19日

中学生の受講者を2クラスずつ2回に分けて、オンラインで模擬授業を行う予定である。

中学生には、事前に家の冷蔵庫にある食品をアンケートで答えてもらっており、食品ロスに対する問題意識は高いものになっている。

2回の模擬授業の実施は、学生の力量アップになると共に中高大の消費者教育プログラムの構築の一助となると考えられる。

②消費者フォーラム in HIROSAKI

1月21日 13時開会 16時閉会予定

会場 弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール

オンライン参加、アーカイブ視聴が可能

フォーラム概要

第1部 基調講演

「学校でもSDGs～じつはこんなにやっている～」

大賀茂樹（青森市立浪岡北小学校校長・公認心理師）

第2部 大学生・高校生・中学生の成果発表

合同報告会の2チームによる発表以外に

大学生1名、高校生2名、中学生1チームの報告が予定されている。

フォーラムの詳細については、次頁にプログラムがあります。

4 おわりに

消費者市民社会の構築は、小学生から大学生までの学校教育、家庭での教育、社会人のための教育が連動して行うべきである。地域の中に拠点を設け、そこに情報が集約できれば効率的である。本プロジェクトの遂行はそうした拠点を作り、中高大の実践プログラム作成の土台作りを進める意義を有している。

〈参考文献〉

(2021) 2020年度弘前大学人文社会科学部・教育学部 消費者教育推進事業（文部省委託事業）報告書 大学における消費者問題講義の実践モデル構築

(2022) 2021年度弘前大学人文社会科学部・教育学部消費者教育推進事業報告書 中高大連携を目指した消費者教育推進の取り組み

本稿に対する質疑、3月末発行予定の報告書の入手を希望する方は
本稿文責・保田宗良 E-mail yasuda@hirosaki-u.ac.jp までお問合せください。

弘前大学人文社会科学部・弘前大学教育学部・青森県消費者協会共催事業



2023

1月21日(土)

12時30分開場

13時開会～16時閉会(予定)

会場 弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール

(青森県弘前市文京町1番地 弘前大学文京町キャンパス)

※オンライン参加・アーカイブ視聴もできます。

開会の辞 飯島裕胤(弘前大学人文社会科学部長)

第1部 基調講演

学校でもSDGs～じつはこんなにやっている～

大賀重樹(青森市立浪岡北小学校校長、公認心理師)

第2部 大学生・高校生・中学生の成果発表

冷蔵庫の中を探索しよう!～食品ロスを削減するためには～

赤石梨華・葛西敦季・今井康太・齋藤由汰(弘前大学人文社会科学部)

「きみとタノシーの一日すごろく」を用いた

幼い子どもと保護者への消費者教育実践

平川愛理・佐藤志歩・後藤彩香・丸山明日香・金谷理利香

(弘前大学教育学部)

結婚披露宴契約解除に関する裁判例の紹介

菊池 晃(青森中央学院大学経営法学部)

児童労働の子供とご飯を十分に食べられない子供を

フェアトレード商品で救う

舘下陽奈乃(弘前中央高等学校)

どうしたら我が家の食品ロスを減らすことができるのか

須藤安美(弘前中央高等学校)

青森県の地域の食材や郷土料理の魅力を発信しよう

伊吹百萌・佐々木琉生・神 徳智・中島雪乃・松木颯汰・三輪幸花

(弘前大学教育学部附属中学校)

閉会の辞 月館法弘(青森県消費者協会常務理事)

新型コロナウイルス感染防止のために十分な配慮をお願いします。

オンライン参加・アーカイブ視聴を希望される方は下記アドレスまでご連絡下さい。

新型コロナの感染状況によってはオンラインのみで開催します。

参加費
無料

【主催】弘前大学人文社会科学部・弘前大学教育学部・青森県消費者協会

【後援】青森県教育委員会・弘前市教育委員会・黒石市教育委員会・平川市教育委員会・

西目屋村教育委員会・藤崎町教育委員会・大鰐町教育委員会・田舎館村教育委員会

【協力】青森中央学院大学・弘前中央高等学校・青森県消費者問題研究会

【連絡先】弘前大学人文社会科学部 保田宗良

TEL/FAX 0172-39-3293 E-mail: yasuda@hirosaki-u.ac.jp

消費者プラットフォーム in HIROSAKI

II.

中高大連携による消費者教育推進事業の実践モデルの構築